

I. 活断層で発生する地震の発生確率値の更新前後の比較(算定基準日 平成22年(2010年)1月1日)

	2009年1月1日時点の評価	2010年1月1日時点の評価
山形盆地(北部)		
30年	0.002-8%	0.003-8%
50年	0.004-10%	0.005-10%
有馬-高槻		
30年	0-0.02%	0-0.03%
六甲-淡路島(主部)ノ六甲山地南縁-淡路島東岸		
30年	0-0.9%	0-1%

	2009年1月1日時点の評価	2010年1月1日時点の評価
中央構造線(讃岐山脈南縁-石鎚山脈北縁東部)		
50年	0-0.6%	0-0.7%
300年	0.03-20%	0.04-20%
中央構造線(石鎚山脈北縁)		
50年	0-0.6%	0-0.7%
中央構造線(石鎚山脈北縁西部-伊予灘)		
50年	0-0.6%	0-0.7%

※活断層評価備考

・ここに掲載しているものは、再計算の結果、発生確率値の表記に変更のあったもの。

II. 海溝型地震の発生確率値の更新前後の比較(算定基準日 平成22年(2010年)1月1日)

	2009年1月1日時点の評価	2010年1月1日時点の評価
千島海溝		
十勝沖		
平均発生間隔	72.2年	
ばらつき α	0.24-0.32	
経過率	0.07	0.09
10年	ほぼ0%	ほぼ0%
20年	ほぼ0%-0.04%	ほぼ0%-0.07%
30年	0.2%-2%	0.2%-2%
40年	3%-9%	4%-10%
50年	20%程度	20%-30%
根室沖		
平均発生間隔	72.2年	
ばらつき α	0.24-0.32	
経過率	0.49	0.51
10年	3%-8%	4%-9%
20年	20%程度	20%-30%
30年	40%程度	40%程度
40年	60%程度	60%程度
50年	80%程度	80%程度
色丹島沖		
平均発生間隔	72.2年	
ばらつき α	0.24-0.32	
経過率	0.55	0.56
10年	6%-10%	7%-10%
20年	20%-30%	30%程度
30年	50%程度	50%程度
40年	70%程度	70%程度
50年	80%程度	80%-90%
択捉島沖		
平均発生間隔	72.2年	
ばらつき α	0.24-0.32	
経過率	0.63	0.64
10年	10%-20%	10%-20%
20年	40%程度	40%程度
30年	60%程度	60%程度
40年	70%-80%	70%-80%
50年	80%-90%	80%-90%

	2009年1月1日時点の評価	2010年1月1日時点の評価
三陸沖から房総沖		
三陸沖北部		
平均発生間隔	97.0年	
ばらつき α	0.11-0.24	
経過率	0.42	0.43
10年	ほぼ0%-0.4%	ほぼ0%-0.5%
20年	0.001%-3%	0.002%-4%
30年	0.2%-10%	0.3%-10%
40年	5%-30%	6%-30%
50年	30%-40%	30%-50%
三陸沖南部海溝寄り		
平均発生間隔	104.5年(105年程度)	
ばらつき α	0.19-0.24	
経過率	1.07	1.08
10年	30%-40%	40%程度
20年	60%-70%	60%-70%
30年	80%-90%	80%-90%
40年	90%程度	90%程度
50年	90%-98%	90%-98%
茨城県沖		
平均発生間隔	21.2年	
ばらつき α	0.16-0.24	
経過率	0.03	0.08
10年	ほぼ0%-0.2%	0.01%-0.8%
20年	50%程度	60%程度
30年	90%程度以上	90%程度以上

	2009年1月1日時点の評価	2010年1月1日時点の評価
宮城県沖		
平均発生間隔	37.1年	
ばらつき α	0.177	
経過率	0.82	0.85
10年	70%程度	70%程度
20年	90%程度以上	90%程度以上
30年	99%	99%
40年		
50年		

	2009年1月1日時点の評価	2010年1月1日時点の評価
日本海東縁部		
北海道北西沖		
平均発生間隔	3900年	
ばらつき α	0.17-0.24	
経過率	2100年(0.54)は概数なので更新せず	
10年	0.002%~0.04%	0.002%~0.04%
20年	0.004%~0.07%	0.004%~0.07%
30年	0.006%~0.1%	0.006%~0.1%
40年	0.008%~0.2%	0.008%~0.2%
50年	0.01%~0.2%	0.01%~0.2%
北海道西方沖		
平均発生間隔	1400-3900年	
ばらつき α	0.17-0.24	
経過率	0.02-0.05	0.02-0.05
10年	ほぼ0%	ほぼ0%
20年	ほぼ0%	ほぼ0%
30年	ほぼ0%	ほぼ0%
40年	ほぼ0%	ほぼ0%
50年	ほぼ0%	ほぼ0%
北海道南西沖		
平均発生間隔	500-1400年	
ばらつき α	0.17-0.24	
経過率	0.02-0.05	0.02-0.05
10年	ほぼ0%	ほぼ0%
20年	ほぼ0%	ほぼ0%
30年	ほぼ0%	ほぼ0%
40年	ほぼ0%	ほぼ0%
50年	ほぼ0%	ほぼ0%

	2009年1月1日時点の評価	2010年1月1日時点の評価
相模トラフ		
大正型		
平均発生間隔	200-400年	
ばらつき α	0.17-0.24	
経過率	0.21-0.43	0.22-0.43
10年	ほぼ0%-0.09%	ほぼ0%-0.1%
20年	ほぼ0%-0.4%	ほぼ0%-0.5%
30年	ほぼ0%-1%	ほぼ0%-1%
40年	ほぼ0%-3%	ほぼ0%-3%
50年	ほぼ0%-6%	ほぼ0%-7%
元禄型		
平均発生間隔	2300年	
ばらつき α	0.17-0.24	
経過率	0.13	0.13
10年	ほぼ0%	ほぼ0%
20年	ほぼ0%	ほぼ0%
30年	ほぼ0%	ほぼ0%
40年	ほぼ0%	ほぼ0%
50年	ほぼ0%	ほぼ0%

	2009年1月1日時点の評価	2010年1月1日時点の評価
山形県沖		
平均発生間隔	1000年以上	
ばらつき α	0.17-0.24	
経過率	0.18以下	0.18以下
10年	ほぼ0%	ほぼ0%
20年	ほぼ0%	ほぼ0%
30年	ほぼ0%	ほぼ0%
40年	ほぼ0%	ほぼ0%
50年	ほぼ0%	ほぼ0%
新潟県北部沖		
平均発生間隔	1000年以上	
ばらつき α	0.17-0.24	
経過率	0.04以下	0.05以下
10年	ほぼ0%	ほぼ0%
20年	ほぼ0%	ほぼ0%
30年	ほぼ0%	ほぼ0%
40年	ほぼ0%	ほぼ0%
50年	ほぼ0%	ほぼ0%

	2009年1月1日時点の評価	2010年1月1日時点の評価
南海トラフ		
南海地震		
平均発生間隔	次の地震90.1年(平均114.0年)	
ばらつき α	0.20-0.24	
経過率	0.69	0.70
10年	10%程度	10%-20%
20年	30%程度	30%-40%
30年	50%-60%	60%程度
40年	70%-80%	70%-80%
50年	80%-90%	80%-90%
東南海地震		
平均発生間隔	次の地震86.4年(平均111.6年)	
ばらつき α	0.18-0.24	
経過率	0.74	0.75
10年	20%程度	20%程度
20年	40%程度	40%-50%
30年	60%-70%	60%-70%
40年	80%-90%	80%-90%
50年	90%程度以上	90%程度以上

※海溝型地震備考

・ここに掲載しているものは、再計算を行ったもの全て。
・黄色で示した箇所が、再計算の結果、表記に変更のあったもの。

・宮城県沖は、評価文中で

『これらを踏まえ、地震発生の可能性は、年々高まっており、今後20年程度以内(2020年頃まで)に次の地震が起こる可能性が高いと考えた。』

として、30年以内より長期の発生確率の評価を行っていない。